

### ◆◆◆ 緊急地震速報利用者協議会定期総会が開催されました

7月8日(木)、緊急地震速報利用者協議会(会長:阿部勝征東京大学名誉教授)は平成22年度定期総会を日本教育会館(東京都千代田区)の喜山倶楽部で開催しました。本協議会は平成18年12月8日に設立され、既に3年半を経過し、この間会員数も増加し、現在の会員数は138となっています。これまで緊急地震速報に関する情報の共有、周知広報、利活用の促進に向けた活動等を行ってきており、財団法人気象業務支援センターは、その事務局を担当しております。定期総会には、気象庁から西出則武地震火山部長、土井恵治民間事業振興課長に来賓としてご出席いただきました。

本総会では、平成21年度の事業報告、決算報告、平成22年度事業計画及び平成22年度予算案について審議し、議案どおり議決され、平成22年度の事業計画に沿った事業の実施に向けてスタートを切りました。特に今年度は、緊急地震速報の利活用の促進を重点とし、具体策については総合部会で検討し実施に移すこととしています。

気象庁からは、緊急地震速報の最近の状況、平成22年12月1日に実施する緊急地震速報の訓練、現在、気象庁が策定中の「気象庁 適切に利用するために必要な受信端末の機能及び配信能力に関するガイドライン(仮称)」及び緊急地震速報電文のXML化についての説明がありました。また、総会終了後の記念講演として、東京大学地震研究所広報アウトリーチ室の大木聖子(おおきさとこ)先生により「災害に強い次世代を育むー緊急地震速報を使った避難訓練ー」と題してご講演をいただきました。大木先生が実際に小学校へ出向き、防災教育を実施する中で、その必要性や難しさなどについて説明がありました。また、防災教育では緊急地震速報の原理をわかりやすく実験を交えて説明し、緊急地震速報をいろいろなシチュエーションで見聞きしたときに、対応する様子が紹介されました。講演を聴いた会員からは「緊急地震速報の営業活動等で活かすことができ、とても参考となった。」とのお話をいただきました。



来賓祝辞  
西出則武地震火山部長

(財団法人気象業務支援センター配信事業部長 加藤芳夫)